

災害時における障害のある人等への支援に関する意見（調査対象団体別）

① 当事者団体

ア 災害情報、避難情報の伝達

- 点字版、テープ版の災害マニュアルを作成・配布してほしい（視覚）
- 民生委員からの声かけもなく、十分な情報を得ることができなかつたので、情報提供及び安否確認をしてほしい（視覚）
- 災害時に市町村からメール（災害、避難情報）を送るようにしてほしい（聴覚）
- 情報がほしい（ガソリン、食料、水、避難所、正確な情報）、テレビに字幕や手話通訳を付けてほしい、避難所にホワイトボードを設置してほしい（聴覚）
- 要援護者の住所、氏名が個人情報保護条例により市町村から開示してもらえなかつたので、障害者の情報を開示してほしい（共通）
- 障害者の情報を市町村が一元的に把握し、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、自治会等で構成する支援組織を立ち上げ、障害者台帳を作成し、情報を常に共有してほしい（共通）
- 日常的に近所と交流を持ち、自分の存在を自ら示すようにすることが大切（肢体）
- 自宅で避難している人にも物資や福祉サービスなどの支援が受けられるようにシステムを整備してほしい（知的）

イ 避難誘導

- 自力で避難できない人を避難困難者として登録し、地域や公的機関の援助を受け付き添ってもらい避難できるようにしてほしい（視覚）
- 袖ヶ浦市では災害時の援助者2名（本人の了解があれば誰でも可）の登録があり、震災当日様子を見に来てくれて心強かつた（視覚）
- 町内の避難訓練にはほとんどの人が参加していない、地域で実施されない、参加に理解が足りない、以前の参加で嫌な思いをしたなど障害者への対応が課題（知的）
- 施設等では避難訓練は行われているようだが、災害時マニュアルがない、あっても不十分ということが多い（知的）

ウ 避難所

- 周囲の人に障害者であることが分かるもの（名札、腕章）を身につけるとともに市町村職員等の支援をお願いしたい（視覚・聴覚）
- 避難所ではトイレ近くの場所を確保してほしい（視覚）
- 避難所におけるコミュニケーション、情報入手、移動の支援に特別の配慮をお願いしたい（視覚・聴覚・盲ろう）
- 出来るだけ早期に福祉避難所の場所の設定を検討してほしい、障害別避難所の検討もお願いしたい（共通）

- 避難所の階段等に手すりやスロープ、トイレは指先や膝・腰の不自由な方や内部障害の方のため洋式のウォシュレットの設置をお願いしたい（肢体・内部）
- 腹部の洗浄、洗腸（腸内に温湯注入）が必要なため、浴場設備のある福祉避難所の設置をお願いしたい（内部）
- 災害時用に折りたたみ式のオストメイト用のトイレ、テントの備蓄をお願いしたい、習志野市、浦安市は備蓄している（内部）
- 自己導尿（CIC）を行っている会員が多いため、カテーテル（使い捨て）やキシロカイン（ゼリー状）の備蓄をお願いしたい（内部）
- 障害者は一般人と避難場所を同じにするのは理解不足や個々の対応が異なり無理で、専用の避難場所が望ましい（作業所や施設を避難場所とする、ケア専門の人の設置）（共通）
- 福祉避難所の存在の情報を持たない施設が多い、各地域に福祉避難所の設置やそれぞれの施設が福祉避難所としての機能・役割を果たせるような施設整備をお願いしたい（知的）
- 障害によっては、新しい出来事や場所を忘れやすく、ひとりで避難所から出ると戻れない、トイレや自分の居場所が分からなくなる（高次脳機能）

エ 入所施設・通所施設・在宅サービスにおける支援

- 施設が被災して使用できなくなった場合の利用者の支援を確保する方策をお願いしたい（肢体・知的・精神）
- 皮膚・排せつケア認定看護師による介護者や訪問看護師へのストーマ装具交換の研修を実施してほしい（内部）
- 通所の場合でも、一時的に施設で預かってほしい、連絡がつき次第迎えに行くが交通手段等親もパニックになり、子どもはそれ以上にパニックになるので考慮してほしい（知的）
- 医療機関や福祉施設等に対する物資・燃料等の優先配付（特に車両用、ボイラー用、自家発電用燃料）（知的）
- すべての施設・事業所の耐震構造検査とそれに基づく対策をお願いしたい（知的）

オ 心のケア

- 災害時は何とかなるが、その後の精神面の問題には障害のことを分かる方にケアをお願いしたい（共通）
- 被災地の支部から、被災者・支援者ともに過大な負荷で震災という活字を見ただけで涙が止まらなくなるなど PTSD 傾向がみられるとの報告があった、両者に心のケアが必要である（内部）
- 心のケアは長期にわたって対応してほしい（知的）

カ 補装具

- 各オストメイトが自分の避難所に自分の 1 週間分の装具備品類を保管してもらおうよう要望している。習志野市、松戸市、浦安市が対応している（内部）

キ 医療的ケア

- 透析には電気と水が必要だが、自家発電のある病院は少なく、計画停電により時間の変更、短縮により負担を強いられた（内部）

ク ライフライン（停電等）

- マンションの高層階居住だが、計画停電でエレベーターが停止し、通院や買い物など外出ができなくなった（肢体）
- 施設や病院、学校等の公共施設に自家発電の備えがほしい（知的）

ケ 被災者の受入れ

- 他県から被災者を受け入れた場合、住所変更しないと補装具が給付されないとされるなどの混乱が生じたので、各地の行政間での連絡対応が望まれる（内部）

コ 生活全般

- 視覚障害者だけでは給水場所に行くことは困難（視覚）
- ガソリン不足で外出を最小限にした、車は足なので不安（肢体）
- 公衆浴場等では母親が息子の入浴介助が出来ず困った、介助のボランティアがいると助かる（知的）

サ 帰宅困難

- 帰宅困難になったが、どうしたらよいかわからず、トイレにも困った（聴覚）
- 帰宅困難者対策として県の主要な庁舎を開放していただきたい（盲ろう）
- 帰宅途中で交通機関が乱れると本人で判断が難しいためどのように対処してよいか考えておくことが必要と感じた（知的）

シ その他

- 薬を服用中の方は傷病名や薬名を記入した防水用のビニールパック類をいつでも首から下げていればいい（肢体）
- 薬をもらうための医療機関までの交通手段や必要な薬を確保してほしい（精神）

② 事業者等団体

ア 災害情報、避難情報の伝達

- 民生委員は要援護者の見守りを行っているが、障害者に関する情報について行政機関との連携がないことが多い
- ライフラインの被害状況を迅速かつ的確に伝達できる効率的なルートや体制があらかじめ構築されていることが望ましい（団体への一括提供など）
- 地域の小中学校や行政、自治会等と学校、保護者ともに連携を図ることが必要
- 困ったときに対応が分かるよう緊急用の手帳やカードを障害者に発行（障害者手帳度同時に発行、自治体や地域で情報共有）してはどうか

イ 避難誘導

- 自治会等の協力体制システムの構築
- 軽度の就労者など公的機関との関わりのない方の安否確認を誰が行うのか（高齢のケアマネージャーのような人が必要）

ウ 避難所

- 福祉避難所は設置されたが、特性の違う障害者や高齢者も同じ避難所に避難し、対応に苦慮していたので避難所のあり方について検討してほしい
- 学校が避難所になるが、学校は段差が多く障害者には使用しにくい、特にトイレが狭く全身性障害者には排せつができない
- 被災地では車いすの人が障害者だが、それ以外は障害者と思われず、適切な配慮が行われていなかった、障害理解を進めてほしい
- 福祉避難所の考えは改めるべき、東北の避難所では障害者に対して「ここは福祉避難所ではないので出でいけ」との発言もあったらしい

エ 入所施設・通所施設・在宅サービスにおける支援

- 知的児を自宅まで送った施設職員が、保護者不在のため歯科医院に預けていってしまった
- ガソリン不足による日中サービス送迎車の燃料確保
- 施設自体が被災した場合の対応

オ 心のケア

- 精神的なショックを受ける人が多く、ヘルパーが訪問し不安を取り除くのに時間がかかった
- 自家発電は最低限の照明で、長時間の停電による利用者のストレス
- 心のケアは長期にわたり必要、いかに連携、継続していくか

カ 補装具

意見なし

キ 医療的ケア

- 医療的ケアを必要とする人にとっては生命維持のための電源確保をお願いしたい

ク ライフライン（停電等）

- 計画停電のため食事や入浴の時間を変更した
- 計画停電により透析の対応が大変
- 在宅生活者のためライフライン（水、電気、食料）の確保をお願いしたい

ケ 被災者の受入れ

- 観光地のホテルなど利用されない社会資源を平時から確保し要援護者を受け入れ依頼できる関係作りが必要
- 受け入れが長期の場合は通所施設では難しい

コ 生活全般

- 男性障害者と女性の介助者のペアでは開放された公衆浴場等が利用できない
- 生活ホームにはガソリンの優先給油がなかったと思う、被災時に障害者をその暮らし方によって差別すべきでない

サ 帰宅困難

- 一般就労している軽度の知的の方が交通機関不通時に企業から帰され対応できなくなったので情報の把握と支援が必要

シ その他

- 作業所の製品（弁当）の企業向けの大口の販売が中止となり、品物（食材）がだぶついた
- 精神科病院の被災による機能不全で自宅（地域）に戻された場合、地域全体で精神障害者を支えるため、地域の保健センター、保健所への人的支援が必要

③ 相談支援事業所

ア 災害情報、避難情報の伝達

- 情報がテレビ、PC、災害防災無線であったが、テレビなどは停電により使用できず、無線も聞き取りにくいいため正確な情報がつかみにくかった。
- 市のお知らせメールの存在や登録方法が不明
- 行政と連絡が取れず、要援護者の情報が分からなかった
- 災害が起きた時の対処の仕方や地域の方々に助けてもらえるような環境づくりの必要
- 災害時要援護者避難支援計画の早急な取組み
- 公衆電話を福祉施設に整備

イ 避難誘導

- 独居の身体障害者や視覚障害者等、単独では動けない方への避難誘導ができず、支援体制を整えていく必要がある。
- 安否確認システム（市町村に登録しているが連絡がなかった）
- 通信手段途絶のため訪問による利用者の安否確認の問題（時間がかかること、停電で信号機の止まった道路の危険性）
- 安否確認情報の共有の方法（単身者の多くは居宅介護事業所にも関わりあり）
- 事業所の災害時マニュアル整備（家で待機か、施設に避難か、帰宅させるか、事業所で待機か）

ウ 避難所

- 特別支援学校が避難所になっていなかった（寄宿舍併設されていても避難所ではない）
- 精神疾患や自閉症等で一般の避難所で過ごせない方の対応
- 避難所のバリアフリー化、避難所におけるヘルパー利用など

エ 入所施設・通所施設・在宅サービスにおける支援

- 夜間の災害発生時の避難対応や責任者への連絡手段不通時の対応
- 通所のため送迎の問題（家族が迎えに来られない、自力通所者の帰宅困難による施設待機（特に自閉症の利用者の対応が困難））
- 通所施設が被災した場合の利用者が安全に避難できる方法の確立
- 訪問での安否確認時のスタッフの安全も考慮する必要がある
- 在宅サービスでは安否確認して在宅生活可能かの判断をするが、電話等不通により避難所、病院、施設等への情報提供ができず、地域のネットワーク（民生委員等）が必要である

オ 心のケア

- 不安定になる方へのサポートを医療機関と支援機関で連携が必要
- 震災で不安定になり、計画停電でさらに悪化した、継続的なケア体制が必要

カ 補装具

意見なし

キ 医療的ケア

- 在宅の医療的ケア必要者への対応（停電、物資不足）

ク ライフライン（停電等）

- 計画停電に合せた生活のため、生活リズムが崩れ、体調、状態の不調を訴える人もいた
- 自家発電機や蓄電池を市町村で保有か個別に用意する必要がある

ケ 被災者の受入れ

- 受け入れた被災者のうち親類が住んでいる地域に転入できた人は車いす等支給されたがそうでない人はどうなったかわからない

コ 生活全般

- 自宅が被災し、入浴できず、公衆浴場では母親の介助できず、男性ヘルパーの確保も困難

サ 帰宅困難

- ケアホーム居住の知的の方が県の職業訓練校に登校の日に震災が発生し帰宅できなくなった（学校は開催時間内しか保護できないとのことで事業所でタクシーを確保し帰宅させた）
- 帰宅困難で服薬できない、薬の携帯が必要
- 交通機関等で移動途中の被災した場合の避難の仕方や場所など詳細に決める必要

シ その他

- 災害がおき、自閉症、知的障害の方々には決まったこと、定期的に行っていることができない状況に陥り混乱してしまう方もいた